

ボランティアスタッフと児童との対話例

～先生と呼んでもらう～

教室では、子供たちには大人を「先生」、「〇〇先生」と呼んでもらいます。
「～さん」などと呼ばせるのも不自然ですので、ご理解ください。

～「〇〇したいけど、どうすればいい？」と尋ねられたとき～

どうやればできるか一緒に考えてみよう

まず最初にどうしたいの？（やりたいことを順に説明させる）

NG

できないよ（はねのける）

こうすればできるよ（答えを簡単に与えてしまう）

～子供が作ったプログラムの実行結果に対して～

どうプログラムしたの？（たずね、説明をうながす）

〇〇なところがユニークだね。他は？（認めるが、満足しない）

次は△△できるようチャレンジしてみたらどう？（ステップアップを促す）

NG

すごいね（一方向で完結してしまう。あいまい）

～子供が理解しているか確認するとき～

よくわからないと思う人は手をあげてください

ここは分かったから次に進んでいい、という人は手をあげてください（重要なポイントの場合）

NG

ここままで、何か質問はありますか？（何を聞いてよいかわからない）

～NGワード～

「まだ〇年生だから難しいかな」「さっきも説明したよ」「やっぱり男の子（女の子）だね」「あっちの子供はできてるよ」「〇〇得意？（できる？）」

～注意点～

マウスをなるべく操作しないようにする（スピードが求められるトラブルシューティングを除く）

教えやすい方向に誘導しない

子供の考えを先読みして「こういうことだね」と口に出さない